

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族様や地域の方の協力を得ながら、安心して自立した生活が続けられるような柔軟な支援を事業所の理念に掲げ、毎月の定例会や研修会、また毎朝の朝礼時に唱和し全職員で共有している。	作成された理念は、職員の目の届く介護室や洗面所に貼って常時共有している。	開設当初からの理念で地域密着型サービスとして何が大切かを事業所で考え職員全体で話し合い具体的なケアにつなげる理念であることが求められます。新しい職員は独自でわかりやすく、理解していますので理念を具体化して取り組むことを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で自治会の会員となり、田島地区の一員として、お祭りや地域活動などの情報を地域の方から教えていただき、ご利用者様が地域とのつながりを持ちながら暮らし続けられるよう工夫している。また地域の小学生、中学生の来訪を積極的に受け入れ、老健と合同で交流の機会を持っている。	老健と一緒に自治会の会員になり、老健主体で回覧板が回ってくる。地域の祭りには御輿が回ってきて交流を図っている。散歩に出掛けて地域の人たちと挨拶を交わし、季節の果物や野菜、花等を頂いてくるときもある。小学生のボランティア(話し相手)・中学生のボランティア(楽器演奏)・地域の方々のボランティア(歌やダンス)が来所している。また、家族が地域の新聞等を持ってくることもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、日々の実践での認知症の人の理解や支援について、地域の人たちの相談やアドバイスができるようにしている。見学や相談はいつでも対応ができる。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況や、サービスの実状やその取り組み状況などについての報告や話し合いを行い、そこでの意見や情報をサービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。	利用者代表・家族代表・市の包括職員・法人事務長・地区区長・民生委員等が来所して2ヶ月に1回実施している。日常生活・行事等の報告をして参加者から質問を受けている。認知症の利用者の表情の様子、定期的な散歩、家族と一緒に旅行、また外食に連れて行って良いか、地域の新年会への参加は等質問があり、実践につなげるよう努力している。会議録は市の担当者に送っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員と連絡を取り合いながら、当事業所の実績や状況などお伝えしながら、常に協力し合えるよう取り組んでいる。	運営推進会議録はその都度送って実情やケアサービスの取り組みを伝えている。認定更新の機会や利用者の状況をファックスで送っている。また、他の市町村からの入居(特例)の利用者の件を市町村と連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切行わない旨を事業所内に提示している。また、ご家族様にもその説明を行っている。玄関の鍵は日中は常に空いた状態にしている。スピーチロックは特に留意し、日々の支援に反映できるようにしている。全職員が年2回の内部研修に参加している。	「私たちは拘束しない介護をします」と宣言してホール・介護室に貼って、拘束すると思う前に自分だったら？家族だったら？と考えてみる事になっている。スピーチロックについては職員相互に検討してお互いに注意し合っている。入り口の扉は2段式で常時鍵は開いている。扉の内側に椅子を置いて外に行く気配の時は一緒に散歩に行ってくる。玄関前は田園風景が広がり、施設の敷地内も広く、気分転換が図れる。老健との身体拘束内部研修に参加して学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づく学習会の機会を設け、事業所内に限らず利用者様の自宅での虐待が見逃されないよう注意すると共に防止に努めている。「高齢者の思いに寄り添うケアを推進するための手引き」を身近に置き、いつも観覧し、研究している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護の研修会を開き、職員に周知徹底を図っている。「高齢者の思いに寄り添うケアを推進するための手引き」身近に置き、いつも観覧し、研究している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定時には、ご利用者様やご家族様の意見や意向・疑問点など、一度ではなく直接何度か話し合い、理解していただけるよう努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会が頻回にあるため、その都度ご家族様からの要望をお聞きすると共に、ご本人にもその都度意見や要望を聞く機会を作っている。また、苦情に関してなども、意見が言いやすいよう、窓口を併設施設の相談員が対応し、法人内で連携して意向の反映に努めている。	併設(老健)の相談員がグループホームの相談を兼ねている。家族側から施設外のどこかに連れて行ってほしいとの要望・希望があり、外食、リンゴ狩り、あやめの里、昌福寺へ初詣等、家族から出た要望は出来る限り実施できるように検討している。個人的な要望は申し出があった時に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、定期的にスタッフミーティングを行い、職員の意見や要望を聞き、業務に反映できるように取り組んでいる。出席できないスタッフは事前に意見を伝え、会議の内容は議事録で確認している。	月1回会議を開催し、各入居者担当職員が意見を出して検討している。行事等はその都度提案された中から検討して実施している。日々の備品等の購入は法人老健に要望している。また、職員から出たアイデアの中で実施された例もある。県・市主催の研修等は希望で出席できるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績・勤務状況などを把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者やスタッフの個々の努力や実績・業務状態などを評価し、やりがいや向上心が持てるよう配慮している。資格習得等についても、勤務時間を考慮するなどの応援体制もある。毎年の「人事考課表」提出後、個々に面接をして、働きやすい職場環境、条件等の把握に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して、職員の力量や段階に応じて事業所内外の研修や学習会の機会を作り、人材育成に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の交流会や勉強会の開催時には参加できる職員は積極的に参加している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の困りごとや不安に思っていることは何かを十分傾聴し、安心していただけるよう気持ちに寄り添いながら、信頼関係が構築できるよう、職員全員が日々努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が今何にどう困っているのかそれぞれの思いをお聞きし、一緒に考えながら、その不安の軽減や望む暮らしのお手伝いができるよう努力している。31年1月の「運営推進会議」において、家族代表の方が介護方針に賛同する発言も出てきた。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新体制となり、インテークの時は「本人・ご家族様より要望等」聞き取りをすることとしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者さまより、普段から生活の知恵など様々なことを教わりながら、ご利用者様と職員が共に支え合いながら、暮らしを共にしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様様のみならず、ご家族との交流を持ちながら、ご家族のお気持ちにも寄り添い、ご本人様の日々のご様子や出来事などを共有し、共に支える関係づくりをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、実家でご家族と一緒に過ごして頂いたりしている。また、昔からの親しい友人の方が頻繁に来てくださっている。	入居前の近所の友人や大正琴、バレーの友達が来所してくれる。家族や子ども、孫が面会に来て、馴染みの美容院や床屋さんなどに連れて行ってくれる。配偶者や家族がなくなり一周忌や命日に連れて行って下さる方もいる。定期的に家族が来た時に職員側で日々の状況を話して継続的な交流ができるよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのお話に耳を傾け、時には相談も聞きながら、職員も含めた気の合う仲間や家族のような関係性作りを努めている。食事の席も気の合う方々が一緒になるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、当グループの利用者様と職員とで併設している老健施設に面会に行ったりしている。併設施設の相談員とも連携をとりながら、ご家族様とのその後のやり取りを継続し、相談や支援をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人がそのひとらしい暮らしができるよう、本人の思いや意向の把握に努めている。言葉で表現が困難な方は、行動やその表情に気を配りその思いを読み取るよう努めている。	利用者の生活リズムを把握して、思いがかなえられるように、言葉にしづらい利用者には言葉以外の表情で訴えたときに職員は汲み取ってケアの中で寄り添っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の価値観や個性を尊重したサービスができるよう、それまでの人生や生活のご様子、また環境の背景や人間関係等をご本人さまやご家族からお聞きしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの日々の過ごされ方や心身の状態の変化に留意しながら、その方の出来る事は何かに着目し、全体像の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれの望む暮らしの実現のために、ご本人やご家族から思いや意見等を聞きながら、職員全員が情報を常に共有し合い、ケアの実践を行っている。	担当職員や全職員でのかかわりの中から気付きや思い、変化を把握し職員間で共有して介護計画を作成している。変化が起きた時点で担当者会議を実施して職員全員で意見を出し合い、家族の意向と要望を取り入れて利用者に合ったプランを作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の一日を通しての行動や発言、そこから職員の対応や気づきを日々の記録に残し、職員同士の情報の共有や介護計画の見直し、また、ケアの実践に活かすよう工夫している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族のそのときの状況に応じて、送迎や通院等の必要な支援を行っている。また、併設施設の協力も得ながら、サービスを限定せず多機能的に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を積極的にしており、地域包括センターや市役所の介護課や田島地区区長などの協力を得ながら、地域のボランティアの方など多くの方が参加してくださっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族が希望されるかかりつけ医に診ていただいている。かかりつけ医との連携をとりながら、病状の把握に努めている。また、受診や通院については、ご家族様の要望や状況に応じてスタッフが対応している。	本人の入所前のかかりつけ医に家族が連れて行って下さる利用者もいる。事業所の協力医や主治医が週2回来所して対応している。訪問歯科も受けている。緊急時、老健の医師に診てもらい主治医に連絡を取ることもある。また、複数の医療機関と関係を回り、家族と連絡を取り、眼科、皮膚科に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化に留意し、異常の早期発見に努めている。日頃から併設施設の看護師と連携をとり、体調の変化がみられたときは直ぐに報告をし、医療につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院された際は、医療機関と情報の交換をし、できるだけ速やかに退院することができるよう、協力体制をとっている。また、入院先へお見舞いに行き、利用者様が安心して治療に専念できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階から、話し合いの機会を作り、ご本人様とご家族や関係者の意向を確認している。そこから当施設で対応できる最大のケアについての説明もしている。また、方針が決まればチームで方針を共有していく。重度化して医療行為が必要な場合は併設施設へ移れるよう相談室の協力を得ている。	入居時家族と話し合いの場をもち、家族の意向を確認している。点滴が必要なときや医療行為が必要なときは法人老健に移して対応できる事を伝えている。変化がある際にはその都度家族へ連絡し、飲み込みが悪い・むせる・高熱がある際は老健医師・看護師の協力を得て老健に移すようにしている。介護職員は緊急時の対応の研修を受けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応については、マニュアルを作り職員全員が把握している。また、緊急時は併設施設の看護師が応援に入り、共に対応することになっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作り備えている。いざという時の為に、日ごろから利用者様と共に避難訓練を実施している。地域の方との連携体制も確立しており、近隣協力者の名前も「緊急連絡網」に記載されている。	マニュアルを作成して年2回(避難訓練、夜間想定防災訓練)行っている。消防署の協力を得て老健と共に、避難経路の確認、初期消化訓練を行い、参加できなかった職員には後日訓練時の写真等で様子を説明しながら共有している。	夜間の1人体制を考えて、全員が消火器や通報・連絡方法、避難誘導等実践の中から具体的に学ぶ事を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として常に敬意をはらって接することを忘れず、言葉かけや対応を行っている。また、個人の情報についても責任ある扱いと管理をしている。	利用者本人の意思を尊重し、今までの生活に合った言葉かけをするように努めている。トイレや居室に入る際は必ずノックしてプライバシーを守って支援している。入浴時、数名が入浴できる浴槽なので一緒にいる利用者にはその都度声をかけて了解を得てから実践している。個人の書類等は専用の戸棚に保管してある。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が分かりやすく、答えやすいような声掛けや働きかけに留意している。自己決定ができる場面や雰囲気作りを心がけ、意思表示が困難な方にはその方の行動や表情を観察し、読み取って理解していくよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまで歩んでこられた生活の習慣があることを理解し、一人一人の生活のペースを尊重し、集団生活の中でも自分らしさが保てるよう、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えなど、ご自分で選んでいた。また、女性の方には、朝の整容時にお化粧をご自分でしていた。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設の厨房が一括して行っている。ご飯はホーム内で炊いている。ご利用者様には器の準備や後片付けなどのできることをしていただいている。時々ほうとうなどを一緒に作っている。食事は毎回職員も一緒に食事をし、会話をしながらゆったりと食べていただいている。	主食はホーム内で炊き、主菜、副菜、お粥等は老健厨房で作ったものがワゴン車で届く。利用者は職員と一緒に器を並べたり、片付けを行っている。時には利用者と職員と一緒にほうとう、カレーを作って楽しんでいる。職員は一部介助の利用者の支援をしながら同じテーブルを囲んで楽しく食べている。食べやすい形態の為、利用者全員が完食している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人一人の食事量や水分量を把握し、必要な栄養や水分が確保できるよう、提供の仕方を工夫している。また、管理栄養士と連携しながら、個々の体調や摂取状況に合わせた食事形態、嗜好品などを提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に嚥下体操を行っている。食後の口腔ケアは、出来る方には声掛けをして見守りしている。出来ない方はお手伝いをして清潔保持に努めている。また、定期的に訪問歯科が来ており、口腔内の状況を診ていただいている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から一人一人の排泄のパターンを把握したり、行動を観察して排泄のサインに気づけるようつとめている。その方が気持ちよく過ごせるよう、時間やタイミングをみてそっと声掛けを行っている。	排泄チェック表を確認して支援している。数人の利用者が排泄の自立をしているが、中には車椅子を使用してトイレに自力で排泄している利用者もいる。夜間は時間を見ながら誘導している。ポータブルトイレは夜間のみ1名が使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量を把握し、必要時は水分の促しや食事の内容を管理栄養士と相談しながら、提供している。また、職員と一緒に施設の周りなどを歩いたりして、適度な運動を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	火・木・土が入浴日となっている。回数や時間は利用者様の希望に合わせている。入浴中は職員と会話をしたりして、ゆったりと入っていただけるよう努めている。また、洗髪や入浴を拒む方には無理強いしないよう心がけている。	①週3回入浴を実施している。 ②風呂の支援は2~3名の職員で対応して安全を心がけている ③老健のチェアー浴を使用して4名を支援している。 ④入浴の際、好みの服を本人が選んで支度している。弱酸性の石鹸を使っている利用者、保湿のローション、椿オイルを使用している等、一人ひとりの習慣や好みをきいて個別の入浴支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホーム甲西	日中は活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整えている。それぞれの方の就寝時間に合わせて、夕食後は過ごしていただいている。安眠できるよう、居室の温度や明るさも一人一人に合わせて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループホーム甲西	一人ひとりの処方説明書をそれぞれのファイルに綴じてあり、いつでも確認できるようにし、副作用にも十分な注意をしている。内服薬に変更があったときは必ず連絡ノートにも記載してスタッフ全員が把握の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホーム甲西	掃除や食事の後片づけなど、毎日の日課に役割をお願いし、生活に張り合いを持っていただけるよう支援している。また、縫い物や大正琴など、昔得意にされていたこととしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム甲西	月に一度全員でお昼ご飯を食べに出かけている。それ以外にも、リンゴ狩りや花見など、バスハイクに定期的に出かけ、季節を体感していただいている。	グループホーム甲西	外食で夢庵に行ったり、バスを使用してリンゴ・サクランボ狩り、桜の花見、クラフトパーク等に出掛けている。以前住んでいた家の周りを見て帰って来るときもある。季節感を味わうことのできる場をもつ努力をしている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム甲西	ご家族様よりお金を預かり、施設で管理している。買い物にでかけたり、ご本人が欲しい物がある時は、ご自分で払っていただくよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム甲西	ご利用者様の希望に応じて、電話や手紙が出せるように支援している。電話や手紙を出せる所が併設施設にあるため、職員と一緒にやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム甲西	毎朝利用者様も一緒に掃除をしていただきながら、気持ち良い環境が共有できるようつとめている。玄関には季節ごとに飾りを変えたり、創作した貼り絵を廊下に貼ったりして楽しんでいただけるような雰囲気作りを行っている。	グループホーム甲西	玄関入口ホールにはソファや観葉植物が置かれ、面会時に安心してひとときを過ごすことができる。ホール全体に職員と一緒に作成した貼り絵が飾られて季節を感じる。キッチン是对面な家庭的な雰囲気を感じ、キッチン前の畳の場所がくつろげる場になっている。トイレは3ヶ所あり、車椅子の方が自力でトイレ使用している。浴槽は大型で時には仲の良い2人が入っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	グループホーム甲西	玄関ホールにソファやテーブルを置いたり、畳のスペースがあるので、それぞれが好きな空間で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム甲西	できるだけ住み慣れた自宅のようにリラックスできるよう、自宅で使われていた椅子やラジオなどを置いていただいている。また壁にはレクリエーションで作った物や写真など、ご本人の好きな物に囲まれて過ごしていただけるよう工夫している。	グループホーム甲西	①居室は全室南側にあり、明るく日当たりが良い。 ②利用者の個室入口の表札は1丁目～3丁目に分かれ、のれん、カーテン、好みの物が掛けられ、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。入口横の小窓は障子で、心なごむ雰囲気落ち着く。 ③室内には本人の写真や思い出の椅子、机等が持ち込まれ、それぞれの家庭的な配慮の中で生活している。各部屋に大判の濡れたタオルを干して乾燥を防いでいる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム甲西	居室ごとに洗面台があり、ご自分で身だしなみを整えたりしていただいている。出来ないことだけに注目するのではなく、ご自分の力を活かして動けるよう、そっとサポートするようにしている。		